

# 札幌医科大学と留萌市が連携協定を締結しました



協定書に署名し、握手を交わす島本和明札幌医科大学理事長・学長(左)と高橋定敏市長

健康長寿のマチを目指して

平成25年5月22日、札幌医科大学と留萌市は、市民の皆さんの健康と福祉の向上、人間性豊かな医療人の育成に寄与することを目的に連携協定を締結しました。

市では、これまでも札幌医科大学と連携し「地域医療合同セミナー」の地域医療実習や市民公開講座の開催を実施しており、その実績が評価され、今回の連携協定が結ばれることとなりました。

札幌医科大学が道内の自治体と連携協力を結ぶのは、宗谷管内利尻富士町、根室管内別海町、宗谷管内利尻町に続いて4番目となり、「市」との連携は留萌市が初となります。

市では、札幌医科大学との一層の連携協力により、若手医療人の育成に向けた地域医療実習・教育、市民向けの公開講座、健康セミナーの開催などのさまざまな取り組みを行うとともに、市の医療・介護・福祉の充実に努めながら、「健康長寿のまちづくり」を目指します。

## 連携協定を強固なものに

札幌医科大学理事長・学長 島本 和明 氏



留萌市と札幌医科大学の連携協定にあたりまして、ひと言ごあいさつを申し上げます。

当大学の学生は、長きにわたり、実習などで留萌市のお世話になっており、学生も実習内容に満足し多くのものを学んで帰ってきています。

また、当大学フロンティア医学研究所の小海康夫教授が、コホート研究

を留萌市と一緒に進めており、留萌市とは、協定で医療人の育成を進めていく上での下地が出来上がっていました。

今回は、これまで培われてきた関係を連携協定という形でしっかりと整理をしていきます。

私もこれまで通り、学生の実習を中心に世話になると思いますので、留萌市民をはじめ各関係機関の皆さんのご協力をお願いします。

当大学として、留萌市に対しどのようなお手伝いができるのかを探り、結ばれた連携協定を強固なものにしたいと思っています。

### これまでの経緯

平成20年度	◇市が「守る健康から自らつくる健康へ」を柱とする留萌市健康づくり計画を策定。
平成21年度	◇札幌医科大学教員の協力のもと、NPO法人るもいコホートピアが設立。 ◇市が「るもい健康の駅」を開設。 ◇市が主催する「市民公開講座」がスタート。(現在も年1回開催)
平成23年度	◇札幌医科大学の医学部と保健医療学部が市内で「地域医療合同セミナー」の地域医療実習を実施。
平成24年度	◇札幌医科大学の医学部と保健医療学部の1年生が市内で地域医療や高齢者介護を体験。2年生が健康教育セミナーを実施。 ◇札幌医科大学が主催する「市民公開講座」を開催。



▲笹川院長と札幌医大生たちが、「るもい健康の駅」を訪問



▲市内高齢者宅を訪れ、地域医療の現場を体験